

STAGE+を楽しむ(166)(HP 収載)
—セガンのブーランジェとブルックナー—

1. 始めに

前報(165)に引き続き、STAGE+のネゼ＝セガンが指揮するブーランジェとブルックナーの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回はネゼ＝セガンが指揮するブーランジェとブルックナーの演奏を選びました。

ネゼ＝セガンが指揮するリリ・ブーランジェとブルックナー

ルツェルン音楽祭 2023

収録日: 2023年8月19日

ヤニック・ネゼ＝セガンが、世界の名だたる名手達が集うヴィルトゥオーソ・オーケストラ、ルツェルン祝祭管弦楽団を指揮します。お届けするプログラムは、独逸交響曲における最高傑作の一つと、20世紀最大の才能と言われながら、わずか24歳でこの世を去ってしまった作曲家の最後の完成作品を並べたものです。その作曲家の名はリリ・ブーランジェ。彼女の陰鬱でメランコリックな交響詩《哀しみの夜に》が、コンサートのオープニングを雰囲気たっぷりに飾ります。続くブルックナーの壮大な交響曲第8番は、かつて「黙示的」とあだ名され、この作曲家の最も偉大な緩徐楽章のひとつである、30分近く続く崇高なアダージョとスリリングな終楽章を経て、暗闇から歓喜の光へと向かうロマン派交響曲の軌跡を具現しています。

演奏:

ルツェルン音楽祭管弦楽団

指揮:

ヤニック・ネゼ＝セガン

曲目:

リリ・ブーランジェ 交響詩《哀しみの夜に》

アントン・ブルックナー 交響曲第8番ハ短調 (ハース版)



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

ブーランジェの交響詩《哀しみの夜に》は、初めて聴くものですが、重々しく陰鬱な表情の曲で、グランカッサやティンパニや銅鑼が効果的に鳴り響きます。

ブルックナーの交響曲第8番ハ短調は、演奏時間が1時間半にもおよぶという大曲です。構成は壮大であり、ブルックナーの交響曲らしい重厚で複雑な音の構成です。これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの効果で、重厚で複雑な音の構成の大曲を破綻なく再生できています。



4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、重々しく陰鬱な表情や重厚で複雑な構成の曲に追隨できています。

以上